

教 育 研 究 業 績 書

年 月 日現在

氏名 加納 和雄

年 月 日現在

枚中 枚目

著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌又は発表学会等の名称	概要	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当 頁数
(学術論文) 1. "Two Short Glosses on Yogācāra Texts by Vairocanaraksita: Vimśikātikāvivṛti and *Dharmadharmatāvibhāgavitti."	単著	2008年 (実際の 刊行は 2009年) (平成20年)	<i>Manuscripta Buddhica</i> , Vol. I: <i>Sanskrit Texts from Giuseppe Tucci's Collection</i> , Part I. Serie <i>Orientale Roma. Roma: IsIAO</i>	ジュッゼッペ・ツッチが1930年代にチベットにおいて撮影した梵文写本資料に基づいて、ヴァイローチャナラクシタ（十一世紀）著『二十論註』『法法性分別論註』の梵文校訂テクストを定め、梵文写真とともに提示した。	Francesco Sferra (ed.)	343-380頁
2. "A Preliminary Report on Newly Identified Text Fragments in Śāradā Script from Zhwa lu Monastery in the Tucci Collection." In: Francesco Sferra (ed.), <i>Manuscripta Buddhica</i> , Vol. I: <i>Sanskrit Texts from Giuseppe Tucci's Collection</i> , Part I. Roma: IsIAO, 2008.	単著	2008年 (実際の 刊行は 2009年) (平成20年)	<i>Manuscripta Buddhica</i> , Vol. I: <i>Sanskrit Texts from Giuseppe Tucci's Collection</i> , Part I. Serie <i>Orientale Roma. Roma: IsIAO</i>	1930年代にジュッゼッペ・ツッチがチベットで撮影した梵文写本の中から、4点のテクストについての比定結果を報告し、その写真資料を提示した。	Francesco Sferra (ed.)	381-400頁
3. 「チョムデンリクレル著『弥勒法の歴史』—テクスト和訳—」	共著	2009年 (平成21年)	<i>Acta Tibetica et Buddhica 2</i>	近年刊行されたカダム派の古写本集成『カダム全集第二輯』に収録されたチョムデンリクレル著『弥勒法の歴史』の校訂テクストと和訳を提示し、チベットに伝えられた弥勒の五法およびその注釈者たちについて概観した。	中村法道	119-139頁
4. 「チョムデンリクレル著『大乗究竟論莊嚴華』和訳および校訂テクスト（1）」	単著	2010年 (平成22年)	『高野山大学論叢』45	二つのチベット語古写本を使用してチョムデンリクレルによる『宝性論』註冒頭箇所の和訳と校訂テクストを提示し、ターラナータによって他空派に帰されるチョムデンリクレルの如来藏思想に関する立場を、同書の内容分析を通じて跡付け、この立場がトルポパによって創始される他空説に影響を与えた可能性を指摘した。		13-55頁

5. 「ゲンドウンチュンペー著 『世界知識行・黄金の 平原』第一章和訳—1930年 代のチベットにおける梵文 写本調査記録—（1）」	単著	2010年 (平成22年)	『密教文化 研究所紀要』23	1930年代にチベットにおいて膨大 な梵文写本を撮影し、近代仏教学 の発展に大きく貢献した、 ラーフラ・サーンクリッティヤー ヤンとゲンドウンチュンペーに による梵文写本調査の実態につい て、旅行記の読解を通じて明らか にした。本稿ではその冒頭箇所の 和訳とテクストを提示した。	63– 103頁
(新聞記事) 理趣経梵本の刊行によせて	単著	2010年 (平成22年)	『高野山時報』	2007年に苦米地等流博士によって 校訂・出版された、『理趣経』梵本に ついて内容を紹介し、文献的な価値に について紹介した。	
(研究発表) サキヤ南寺三解脱門堂の 壁画曼荼羅		2009年 (平成21年)	平成21年度 密教研究会 学術大会	サキヤ南寺の一角にある三解脱門 堂壁面に描かれた、元朝に作成された、 ネパール様式をよく保持する19点ほどの 壁画曼荼羅について、美術史的な観点 から考察し報告した。 川崎一洋氏との共同研究。	
近年の仏典梵文写本研究 の動向—チベットおよび ネパール所蔵の梵文写本を 中心として—		2009年 (平成21年)		小谷信千代氏の特別部会パネル、 「梵文写本研究の現状と課題」に おいて、近年の仏典梵文写本研究 の動向について、特に近年顕著な 成果を上げつつある、中国、 西欧、日本との国際共同研究の 現状について報告した。	
欧米における仏教学の 最近の動向—『人権に 対する仏教的アプローチ』 を読んで—		2010年 (平成22年)		2009年ハノブルグ大学から刊行 された英文論文集『人権に対する 仏教的アプローチ』を読み解き、 特にチベットにおける人権問題 と、仏教教理における人権問題 との関連性の模索について 論じた。	
(その他) 「1930年代のチベット寺院における梵文写本調査」		2010年7月	平成22年度密教 研究会学術大会 高野山大学		
「インド仏教における女性観 に関する研究史」		2011年1月	高野山大学 人権委員会		

(書評) 「新刊紹介・書評: 苦米地等 流校訂Adhyardhaśatikā Prajñāpāramitā: Sanskrit and Tibetan Texts」	2011年	『密教学研究』43	205- 223頁
(競争的資金獲得状況)			
1. 研究代表者			
日本学術振興会・特別研究員PD 日本学術振興会科学研究費 補助金・若手スタートアップ 三菱財団人文科学研究助成	2006年4月～2008年3月 2008年～2010年 2010年10月～2012年9月～	研究課題「チベットにおける『宝性論』の受容と展開」 研究課題「西藏出土梵文写本研究、 グッティングコレクションの網羅的解明」20820060 研究課題「西藏出土梵文写本の保存 と公開—パトナ博物館所蔵ネガフィ ルムの電子化—」	研究代表者
日本学術振興会科学研究費 補助金・若手研究B 三島学術財団	2011年4月～2015年3月 2012年7月～2013年6月	研究課題「チベット伝来梵文仏典写本を用いた インド・チベット文化交渉史の総合的解明」23720030 研究課題新「大陸発見以前の中世インド食文化の再現 —宫廷料理手引書『パーカダルバナ』をもとに—」	
2. 研究分担者			
日本学術振興会科学研究費 補助金・基盤研究C 日本学術振興会科学研究費 補助金・基盤研究B 日本学術振興会科学研究費 補助金・基盤研究C 日本学術振興会科学研究費 補助金・基盤研究B 日本学術振興会科学研究費 補助金・基盤研究C 日本学術振興会科学研究費 補助金・基盤研究C	2011年4月～ 2011年4月～(継続中) 2011年4月～2015年3月 2013年4月～2016年3月 2013年4月～2017年3月 2013年4月～2016年3月	研究課題「チベット仏教寺院補修作業のための基礎データ 集成の作成と公開—現状記録と原型再現—」23520075 研究課題「ヴィクラマシーラ寺院の学僧の著作群における 密教思想の位置づけに関する総合的研究」22320014 研究課題「リソース間連携を考慮したサンスクリット写本 データベースの構築に関する基礎研究」24520060 研究課題「仏典における認識機序記述の研究 —最初期から大乗期に至る記述の構造的把握を通して」25284014 研究課題「スティラマティの俱舎論注釈書 『真実義』梵本写本第一章の研究」 研究課題「註釈文献から見た後期インド密教における 教理と実践の関係に関する研究」25370059	代表・高野山 大学・奥山直司 代表・三重大 学・久間泰賢 代表・一般財団法人人 情報学研究所 苦米地 等流 代表・関西外国语大学・ 外国语学部・教授・中谷 英明 代表・大谷大学・文学部・ 名誉教授・小谷 信千代 代表・大正大学・综合佛教 研究・研究员・種村 隆元

※著書、学術論文、その他の別で列記してください。枠内の()の位置は分量に応じて変更してください。

*加納先生からいただいたデータでは英字部分のフォントはTimes Ext Romanを使用していました。

エクセルには無いので別のフォントを使用しています。そのため、文字化けしている可能性があります。

(吉川)

所属	文学部	職名	准教授	氏名	加納和雄	大学院の授業担当の有無 (　有　)
教育活動						
教育上の主な業績	年月日	概要				
1. 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成21年5月 (2009年5月)	高野山大学学内F D研修授業参加。				
2. 作成した教科書、 教材、参考書	平成22年6月 (2010年6月)	高野山大学密教学概論講義資料作成。				
3. 教育方法・教育実践 に関する発表、講演等	平成21年3月 (2009年3月)	平成21年度FD推進会議成果報告書に寄稿				
4. その他教育活動上 特記すべき事項	平成20年8月 (2008年8月)	平成21年度FD推進会議（新任専任教員向け）				

